

第11回文教厚生常任委員会会議録

令和6年9月19日

○事 件

所管課報告事項

- (1) マイナンバーカード利用による証明書等のコンビニ交付サービスについて
(住民生活課)
- (2) 熊石地域における保育園留学の取り組みについて (住民サービス課)

協議事項

- (1) 常任委員会の視察調査について

○出席委員（7名）

委員長	赤 井 睦 美 君	副委員長	佐 藤 智 子 君
	倉 地 清 子 君		齋 藤 實 君
	関 口 正 博 君		大久保 建 一 君
	黒 島 竹 満 君		

○欠席委員（1名）

能登谷 正 人 君

○出席委員外議員（3名）

議長	千 葉 隆 君	宮 本 雅 晴 君
	牧 野 仁 君	

○出席説明員（5名）

住民生活課長	相 木 英 典 君	住民生活課長補佐	武 田 理 恵 君
戸籍住民係主事	安 部 ちさと 君	住民サービス課長	北 川 正 敏 君
地域振興課長	田 村 春 夫 君		

○出席事務局職員

事務局長	野 口 義 人 君	議事係長	千 代 貴 大 君
------	-----------	------	-----------

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君） お待たせしました。

◎ 所管課報告事項

【住民生活課職員入室】

○委員長（赤井睦美君） では早速、マイナンバーカード利用による証明書等のコンビニ交付サービスについて、住民生活課よりご報告よろしくお願ひいたします。

○住民生活課長（相木英典君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民生活課長。

○住民生活課長（相木英典君） それでは、住民生活課からマイナンバーカード利用によるコンビニ交付サービスについて、ご説明させていただきたいと思ひます。

事業概要ですが、マイナンバーカードを利用して、全国のコンビニなどで店舗内に設置されているマルチコピー機から住民票や印鑑証明書を取得できるコンビニ交付サービスを来年2月から開始するものであります。

2番、コンビニ交付サービスの概要ですけれども、取り扱ひできる証明書は住民票、印鑑登録証明書となります。この二つとなります。

(2)として、証明書発行対応店舗ですが、マルチコピー機が設置されている、セブンイレブン、ローソンなどの全国のコンビニエンスストア等、約5万6千店舗が対応となります。

このコンビニエンスストア等となると、マックスバリューだったりサツドラであったり、マルチコピー機が設置されている店舗となります。

八雲町においては、全てのコンビニで対応が可能ということと、マックスバリューでもコピー機が設置されておりますので、対応が可能ですが、サツドラについてはコピー機が設置されていないということで、サツドラでは発行できません。利用時間ですが、午前6時30分から午後11時までとなっております。

4番として、利用できる方ですが、八雲町に住民登録がある15歳以上の方ということで、高校生から利用できるというふうになります。義務教育期間の方は利用できません。マイナンバーカードをお持ちの方、そして暗証番号がわかる方、暗証番号といいますのは、マイナンバーカード交付時に登録している番号となります。仮に忘れてしまっても窓口で再度設定していただくことができます。

最後に、印鑑登録証明書を取得する場合には事前に窓口で登録している方となっております。

今後の予定ですが、条例改正を印鑑条例の改正を12月第4回定例会でさせていただく予定です。町民のほうの周知については広報等で周知させていただく予定であります。

以上、ご報告させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。

このことについて、質問やご意見はありませんか。

- 委員（倉地清子君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 倉地委員。
- 委員（倉地清子君） 私この資料を見て、私だけだったらいいんだけど、利用時間について、午前6時半から午後11時までで、すごく勘違いして11時って、午前中の11時と勘違いしたんですね。それって私だけかなって。周知していくのに11時って短いなって思う人はいないかなって思うので、もうちょっと23時までですよ、というふうな感じで記載されたほうがいいと思いますが、皆さんどうでしょうか。
- 委員（大久保健一君） 間違わないよ。
- 委員長（赤井睦美君） 午前、午後がついてるから大丈夫。23時でもどっちでも。
ほかにありませんか。
- 委員（佐藤智子君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。
- 委員（佐藤智子君） これに予算は伴いますか。
- 住民生活課長（相木英典君） 委員長、住民生活課長。
- 委員長（赤井睦美君） 住民生活課長。
- 住民生活課長（相木英典君） これはですね、委託をしてですね、業者に委託をしてですね、制度構築をしています。ということ、これを利用するための回線使用料ってものがかかっています。それと一件当たり住民票、印鑑登録をご本人様がコンビニでとる。手数料条例で250円かかるんですが、その内訳としてはサイトを運営しているところに、負担金というものを297円、コンビニ手数料とJ-LISというサイトを運営しているところに、合わせて297円の負担金が発生します。
- 委員（大久保健一君） いくら。297円。
- 委員（佐藤智子君） 一件当たり。
- 住民生活課長（相木英典君） そうです、一件交付されるたびに297円という負担金が発生します。
現状今、制度構築、予算措置しておりますので、すでに委託契約をして制度構築を現在進めているところであります。
- 委員（佐藤智子君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。
- 委員（佐藤智子君） そうするとその予算のほうと聞いて恐縮ですが、だいたい予想件数かける一件の使用料というか今の297円ってかたちで算出するって感じですか。
- 住民生活課長（相木英典君） 委員長、住民生活課長。
- 委員長（赤井睦美君） 住民生活課長。
- 住民生活課長（相木英典君） 今年度予算についてはですね、予定している、ちょっと多めにですけども、払う負担金ですね、一件当たり297円ってことで予算をしております。
それとあと2月からの2か月分の回線使用料ってことで予算は計上しています。
- 委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。
- 委員（大久保健一君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保建一君） ごめんなさい、今の話だけれども 250 円は住民票とる人がかかるんでしょ、それはコンビニとかだったら歳入としては入ってくるのね。そのほかに 297 円を町から払うと。わかりました。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

じゃあ、委託するので、このことによって職員の皆さんの仕事がとても煩雑になるということはないんですね。

○住民生活課長（相木英典君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民生活課長。

○住民生活課長（相木英典君） そうですね、委託をしてですね、基本的には業者にお任せしておりますけれども、それにとまなう事務処理は発生をしております。それで、そのほかに実際にコンビニで交付してもらう方がどんどん増えることによってどういうことが起こるかという、今役場では時間内に来れない人に対して、電話予約サービスってことで、時間外に交付しますということをやっているんですが、そういうことも今後は、ご本人様が煩わしい思いをしなくても直接コンビニで交付、出すこともできますし、それに伴う役場職員の事務処理も軽減するということになると思います。

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。

○委員（斎藤 實君） 事務処理は増えるでしょ。金の出し入れもしないといけないし、確認しないとないでしょうし。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） それは手続きとった人、コンビニから直接役場に連絡があるとか、機械と機械で連動して数がわかるとか、お金の流れはコンビニからどういうふうになるとかそういうのは、ちょっと混乱していますが、説明できますか。

○委員（斎藤 實君） 手間暇かかりますよね。一見いいように見えるけれども。

○住民生活課長（相木英典君） 委員長、住民生活課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民生活課長。

○住民生活課長（相木英典君） ご本人様がコンビニで 250 円払うんですけども、サイトを運営している J-L I S というものがあるんですけども、その J-L I S から 250 円が町に入ってきて、そして役場としては、297 円の負担金を、歳入も入ってくるんですが、負担金を別に支出するって流れになっています。

○委員長（赤井睦美君） わかりました。

ほかにありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） それでは慣れるまで大変だと思いますが頑張ってください。ありがとうございました。

【住民生活課職員退室】

【住民サービス課職員入室】

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。

それでは熊石地域における保育園留学の取り組みについて、住民サービス課よりよろしくお願いたします。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） 熊石地域における保育園留学の取り組みについてですが、6月の第2回定例会で、事業者へ委託するための関係人口創出業務委託料の補正予算の承認をいただいておりますが、6月下旬から事業者と契約に向けて本格的な協議を進めてまいりました。しかし8月の中旬に、熊石地域での保育園留学事業の実施は厳しいとの連絡があり、この事業者からの受入れ事業を中止することといたしました。

事業者側でも、これまで様々な角度から熊石地域での事業展開を検討していただいたようですが、熊石地域での事業実施がなぜ厳しいのかとの理由について3点ございました。

一つ目として、これまで全国で事業を進めてきている中で、利用の多い地域と少ない地域が実績としてではじめており、分析していくと在園児が少ない地域は利用されづらくなってきており、利用者の満足度を上げづらく、熊石地域では今後も児童数が減少していく中で、5年先は見れますが、10年後を見通すことがなかなかできないということで、熊石側の期待に応えることが会社として難しいということ。

二つ目として、現在40から50か所ほどで事業展開していますが、厚沢部町と熊石地域では近隣であるがゆえに資源も似てしまい、差別化が厳しいと判断しており、厚沢部町で現在も様々な取り組みをしている中で、現行のスタッフの体制では、双方、厚沢部にも熊石にも中途半端になって迷惑をかけてしまうということで、当面の間は厚沢部一本で道南地域は展開していきたいということで、新しい保育園留学の展開場所を道南ではほかの地域には設けないと決めたということです。

それと三つ目は、滞在施設を今後整備するという予定となっておりますが、どのような施設なるのか、長期滞在に対応できるプログラム展開が現行では見通せないということで熊石地域の事業展開は当面の間見送りたいということを決めたという話をされました。

今後についてですけれども、今回のキッチハイクとの保育園留学の受入れ事業は中止することとしましたが、引き続き子育て世代の受入れを可能にするための体制を整えるため、くまいし保育園での一時預かり事業の実施に向けて、子ども子育て支援事業計画への掲載や、条例改正等の手続きを進めていこうと考えております。

以上が、くまいし地域における保育園留学の取り組みについての説明です。よろしくお願いたします。

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。

このことについてご意見ご質問ありませんか。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） 課長が落ち込んでいるところ悪いんですけども、これ中止になった理由を見たら、1番、2番、3番、事前にわかっている話だと思うけれども、今更企業がこれを提示してきたっていうのは、ここまで話し合いしてなかったの。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） 窓口になっていた担当者と話をしているときには、いろいろ未来ある話もしてくれていましたので、熊石ではいろんなことを一緒にやっていけるのかなって、担当者じゃなくてそれを本格的に実施するとなった時点で、本社とといいますか、社内でどういう体制でできるかを検討したいと。人員配置も熊石地域にはどんな人材をとかって話をしていたときに、いろいろと議論になったらしいと。

それで、事業を始めて2年か3年経っているところできつきも説明しましたが、利用者が多いところと少ないところが出てきてるところを分析していくと、今現在やっていて利用者の少ない地域と熊石地域がかぶってくるといいますか、保育園児が少ないとかなかなか親のほうが少ない保育園児のところ連れて行ってもってというような話を、それなりに30人、40人、50人がいる保育園に連れていきながらってというような話で、なかなか厳しい。やったとしても期待通りの人数、常に子どもたちを送り込めるって状況にはおそらくできないって判断を会社側でして、それであれば始める前にやめたほうがいいんじゃないかってことでした。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） この中止になった理由っていうのは先ほど大久保委員が聞いたのと同じなんですけど、今後についての部分で、諦めているわけではないんだっていうのがあって、要するに引き続き子育て世代の方の受け入れを可能にする準備をしていくってことですが、ビーコネクトの会社の皆さんと、この協議しているんでしょうけど、どんなかたちで後押ししていくのか教えてもらっていいですか。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） 今年の夏に、夏休みですが、うちに直接ではないんですが、ペコレラさんのほうで、親子留学みたいな、夏キャンプみたいなかたちで一週間単位で入れ替わりで親子で来て、食育をテーマにしたツアーみたいなものですが、熊石地域でも何かできないかってことで、じゃあウニの時期なので体験や漁師さんと連携してプログラム作ってみるかかってことでやったんですが、大した好評でとといいますか、是非また来年も来たいって、リップサービスかもしれませんが、なかなかできる体験じゃないので、そういう体験にしたいってことを言ってくれていたということなので、保育園留学だけではなくても、期間は限定されますが、そういう親子の受け入れをして、熊石地域をもっとPRできるかたちで、来てもらって体験してもらって初めて熊石の良さが伝えられると思うので、そういうのをいろいろ展開していけたらなっていうふうに思っておりました。

○委員（佐藤智子君） ビーコネクトの話は。

○住民サービス課長（北川正敏君） ビーコネクトと一緒にそういうことをプログラムを作っていきたいということです。

○委員（佐藤智子君） 課長だけが思ってるんじゃないって、ほかの人と話したのかって質問でした。

○住民サービス課長（北川正敏君） もちろんキッチンハイクからこういう話が出たときにコネクトのメンバーと話をして、コネクトのメンバーは始めてしまってからそういう状況、あまり送り込んで来れないって状況になってどうする、こうするってよりも、事前にそういう想定を事業者側がしてるなら、逆に言ってもらったほうが助かるよねって。それで自分たちで違うことを保育園留学のかたちにこだわらなくても、何か違う可能性を探っていけるって、コネクトメンバーも前向きにとらえてくれていると思っています。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） それじゃあ、最初の当初この会社結成される前から熱意のある方って話で、その熱意は全く変わってないってこと。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） 熱意は変わってないですし、これからもどんどん違うものもいろいろ手掛けていきたいって話してくれています。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（斎藤 實君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 僕もビーコネクトのメンバーとちょっと話をしたことがあるんですけど、斎藤さん、どうして早く滞在するところを作ってもらえないんだろうかと、もうちょっといろんなところ、今ここの派遣する会社が駄目になったけれども、地域でいろんなことをしていきたいんだよねって。たとえば泊川で、先ほど今説明がありましたね、あれもやっぱり好評だったよって。だから受け入れ態勢の場所さえきちっとしてくれたらいろんなことができるよってことを話してるんですね。なぜここにお金をかけてもらえないんだろうかって。そういうお話がありました。

それで15日に相沼マルシェ、倉地さんも来場してきていただいて、盛況に終わったんですが、あのときもですね、函館の教育大のボランティアの皆さんが来てくれてたんですね、それで泊るところがないってことで、関内の倉庫を開放してもらって泊めてると。せっかくいろんな研修をしながら、そしてボランティアに携わっている人たちの、そして今の若い人たちが住まいするのにあそこで対応するって言ったって、それは無理だよなって、そういう感じやっぱりしてるんですよ。

ですから、やはりそういう滞在するところを早めに整備して、そしたら地域の方で動いていける場面ってたくさん出てくると思うんです。だからその辺のところはまず最初に手をかけてやってほしいなど。早めはやめに動いてほしいって感じがしますね。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） 先ほど委員がおっしゃるとおり、教育大の実習生が来て2週間近く滞在してもらって、いろいろな行事だったり高齢者サロンにかかってもらったり、子どもたちの放課後子ども教室みたいな放課後子どもたちが集まっているところに行ったり、小学校の部分は給食の時間に一緒に食べてわいわいやってもらったりしてもら

ったんですが、そういう人たちを受け入れる施設は佐藤委員おっしゃるとおり早めにほしいというふうにビーコネクトのメンバーも話をしてくれていますし、我々もそう思って6月定例会にすまいるだとか、旧熊高住宅の改修にかかる設計を補正してもらったというところで、今その設計をやってもらっているというような。このあと事業費だとかある程度の数字が出てきたときに、改めて改修事業の補正をお願いしたいというふうに考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） ちょっとすみません、確認させてください。キッチハイクさんが拠点を受け入れるのは厚沢部だけと決めたと方針をおっしゃりましたが、仮の話として、八雲で声を上げたときに民間企業だから当然それによって矛先は変わっていくんだろうけれども、そういう可能性っていうものはあるんですか。

それともう一点はキッチハイクのほかにこのような事業を行っているところはあるのかどうか、言ってたかもしれないませんが、教えてください。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） キッチハイクのほうでも、このあとずっと受け入れないって、受け入れないっていうのは拠点を作らないって方針ではなくて、向こうも急激に成長した事業なので、なかなか社員を集められない事情も話をしていたので、厚沢部産の事業も報道だとかいろんなメディアで言っているのは、いいところを取り上げてもらっていて、キッチハイクも大変助かっていますが、ああなるまでの水面下で動くにも結構な作業があって、大変なんだということで、当面の間は道南では厚沢部だけで事業展開していきたいけれども、将来的に動ける、自分たちも動ける状態ができればそのときはまたお願いしたいという話をされています。

それで、八雲地域でできないのかっていう話なんですけど、おそらく八雲地域だとできないこともないのかなって気はしますが、そこはきっと熊石は駄目だからすぐに八雲でって、今の会社側のスタッフの体制だとかを考えたらずぐにはOK出さないとと思いますが、できないのかって気はします。

それと、保育園留学に似た事業なんですけど、この会社ってものはちょっと調べられなかったんですが、いろいろコネクトのメンバーともいろいろ情報収集しましたが、長野県だったり、それは自治体が同じ仕組みを自治体が全部やっていて、うちは人がいないからキッチハイクに外から人を集めてもらって、保育園に送り込んだり、地元の宿泊施設に入れたりということをやっている話をしていたんですが、長野県の飯田市って市では、市が全部その辺受け入れたら来てからの世話から保育園の手続きだったり宿泊施設の手続きも市が全部やっていると事業をやっているんですね。なので、できない、何とも言えませんが、そういうのもあちこちでやっていますし、国のほうもそういう子育て世代、東京一極集中をなんとか是正したいということで、そういう子育て世帯が地方に移りたがっているというのを

とらえて、そういう事業をいろいろ展開しているの、なんとか考えてやっていきたいな
って思っています。

引き続きいろんな業者だったり、仕組みを考えて、うちでどうやってっていうのを考えて
いきたいと思います。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） この事業を聞いたときに、将来的に絶対に八雲に必要な事業、
今は無理でも。ですから八雲が中心になってやって、熊石で何日か過ごすってパターンに持
って行ったらこの事業はもっと広がりを見せるんじゃない、熊石が先に手を挙げたいとい
うのが出てくるんだろうなって、俺自身はそう思ってきたんですが、それで当然この取り組
みがどんどん自治体のほうにも広がって行って、いろんなやり方ってものは今出てきてる
んだろうと思いますので、あらゆる可能性を、それで熊石だけで完結させるんじゃなくて、
八雲全体を見通した中で、そういうふうな事業として説得できるものを見つけていただき
たいなと。

どうしても何も核がなくて、施設整備だけっていうのはなかなか難しいんだろうなって
思いますので、いろんな意見を取り入れながら、いろんな、熊石だけになってたらどうして
も狭くなるので、そういう可能性を探りながら検討していただきたいなと思いますけれど
もどうでしょうか。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） おっしゃっていただいているとおりで、熊石だけでも
もちろん完結するつもりもないですし、完結できないって僕も考えています。なので、さっき
も説明しました親子キャンプみたいなのをペコレラさんから紹介を受けてだったり、教育
大生の実習も元々ペコレラでやってたもので去年から、1日、2日熊石でなんかプログラム
作れないかかって声掛けでやったきっかけで教育大と繋がって、今年3人の受入れを決め
たってこともあるので、うちだけでやってもなかなか前に進めないことは、ほかと連携し
てヒントもらったりは今もそういうことを続けているといえますか。

それで、施設が先かプログラムが先かって、なかなかジレンマといいますか、何もないの
に施設を作ってもいいのかとか、何か作ると必ず斎藤委員がいうように宿泊施設みたいな、
滞在施設欲しいよねってところがあるので、なかなか難しいんですが、同時進行でやってい
くしかないのかなって今のところ考えています。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 昔からこの熊石地域にはどうしても、消防のほうからも、消防の部
分もそうですし、鮭の種苗センターのときも、なかなか仮住まいにするところがないって
いうのは地域として現状であったのだらうと思いますので、地域サービス課のみならず、そ
ういうところからも話を聞きながら施設整備ができる可能性を、そこだけで考えてもなか
な難しいでしょうから、そういうものもせつかくですので、連携とりながら熊石は熊石なり
に計画練っていただきたいと思います。

- 委員（斎藤 實君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。
- 委員（斎藤 實君） ただね、ビーコネクトのメンバーもね、八雲地区の赤井さんだとか、まちづくりだとかいろんなボランティアでやってる団体との連携はきちんととってきたいねと。それを自分たちが連携とりながら自分たちが地域でもって活用できないか、いろいろ活動していきたいと。そういう考え方になってるんですね、あの人たちは。だから進めるところはやっぱり住まいするところがまず最初じゃないのかな、拠点作りが最初じゃないのかなと考えるんですけれどもね。答弁はいいんですけれども。そこの部分は積極的だなあの人たちって。
- 委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。
- 委員（黒島竹満君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 黒島委員。
- 委員（黒島竹満君） 今まで、これからさ、これからの運営の仕方っていうかたちで、指定管理を前提としてるわけでしょ。その人たちとはどういうこれからの運営をしていくという話し合いをしてるんですか。
- 住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。
- 委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。
- 住民サービス課長（北川正敏君） 指定管理をしていただく予定ですが、まだ建物もどうい感じで改修のほうも落ち着いていなくて、これから設計をやって改修どうするかたちになっていますし、キッチンハイクは残念ですが、ほかのプログラムも去年、今年といろいろ手掛けて、ちょっとずつですけれども、いろんなノウハウを蓄積している状況なものですから、とはいえどうやって収益を上げていくかってところは今後も継続して考えていかないとないと思っております。
- 委員（黒島竹満君） はい。
- 委員長（赤井睦美君） 黒島委員。
- 委員（黒島竹満君） やっぱり運営は第一だと思うんですね、だから今の運営を考えながら構想っていうのは練っていかないとないと思うんだけど、それが遅れてるから施設も手をかけていけない状態になるんじゃないかなと思うんだよね。だからそこが一番大事なところだと思うんですね。だからやるほうと町がどこまでかわっていくのか、その辺がきちんとしてないんじゃないの。
- 委員（斎藤 實君） やるほうはちゃんとしてるしょ。
- 委員（黒島竹満君） ちゃんとそういう打ち合わせをしてないからこういう状態でしょ。
- 住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。
- 委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。
- 住民サービス課長（北川正敏君） 以前も説明していたと思いますが、今回関係人口を引き出す事業の中の一つに保育園留学ってプログラムがあって、それが相手の都合、うちの体制も弱いつてところもあったと思いますが、できませんとなってしまったんですけれども、そもそも関係人口増やすような事業展開は今までも変わらないってコネクトのメンバーも話してくれていますし、僕もそう思っています。

それで役場と民間とどういう位置関係でって話ですが、これも以前話をしましたが、役所も民間もやったことのない事業を熊石地域でやろうとしているので、最初は一緒に取り組んでいって、何年かしたときには自分たちが自立できるような体制を2年なり3年なりにノウハウを溜めてどうやってそこから収益を上げていくかを考えてもらいつつ、4年目5年目には自立してもらうような関係になっていきたいと。

あと5年か6年後には自分たちで、地域のそういう移住定住まで結びつくかどうかあれですが、関係人口増やす取り組みは民間側でやってもらうし、あとはそれに役場側がどんな援助ができるのか、補助金も出すのか、何か事業委託するのかわからないんですが、その辺は5年ないし6年スパンで事業展開していきたいと。コネクトのメンバーとも話をしています。

○委員長（赤井睦美君） 私はキッチハイクの話をお聞きしたときに、キッチハイクにお任せするとすべて成功するってそんな報告の雰囲気、私これは危険だなって思ったんですね、自分たちがどういうふうに展開していきたいかというのは無いのに、そこにお任せしたら全てオッケーってなんていう、そんな考え方は絶対、と思っていたんですが、さっきのお話も、たとえばペコレラ事業と連携してという、全部民間でやってきたんですよ。その小学生の夏休み期間の滞在の体験とか、そういうのも全部自分たちが民間でやってきていて、それで一緒にやりましょうってなっていますが、今も埼玉県とか東京都の修学旅行生の受け入れもやっているんで、そういうことも一緒にできると思いますが、やっぱり自分たちがもっともっと企画して、自分たちがやっていかないと、町が町がってやってたら、絶対私これは独立できないと思います。

というのは、皆さんお仕事を持っていますよね、ほかに。専門じゃないから。これは何年間補助したらできるのって。私は民間の立場として、これは永遠に補助しないと駄目なんじゃないって気持ちがあります。だから泊るところがないなら私たちも最初はなかったんですが、たとえばひらたない荘さんにこれしかお金がないからこれでやってくれって頼むとか、会館を借りるとか、新しい会館ができていますからね、そういうことも自分たちで努力しながら自分たちはやってきたって感覚があるので、ないから早く作ってっていうのもいいんだけど、もっともっと自分たちでできることを実践していかないと、今後これずっと町が面倒見ないといけなくなってしまうと思うので、本当のやり方、民間としてこういうやり方していったら自立できるって自分たちが発案していかないとね、無理だなって気はしますね。

それで一個お聞きしたいのは、補正予算のときにまだキッチハイクになにも動いてないのにこんなにお金が必要なんですかって質問したら、ホームページとかもう作ってるからお金がかかるってお答えだったんですが、できてるんですか。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） ホームページを作ってるんじゃなくて、作るための諸経費も含めた委託料ってことで、初年度は高い金額ですって説明をしたと思うんですけども。それで、次年度以降は初年度よりももっと安くってというような話を当時はしていました。

今まだベンチャー企業なので、常にいろんな事業展開を考えて変わっていったような気がするのですが、今後どうなっていくかちょっとわからないですけども、厚沢部に話を聞きに行ったときには、厚沢部には委託料みたいなのが、直接保育園留学の委託料みたいなかたちではないって話をされていて、一件いくらみたいな話をしていたんですよ。それは一番最初に始めたところなので、お互いに手探りでって部分があったと思いますが。なので、ホームページだとかは今作ってないって状況です。

○委員長（赤井睦美君） 最初に補正予算で出したのは一銭も使わないで終わるってことですね。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） まだ契約していませんから、予算はそのまま残しています。その扱いについては減額補正するか執行残に残すか、財政とも詰めていきたいというふうに思っています。

○委員長（赤井睦美君） やっぱり役場というか、役場が一番情報を持っていると思うので、情報提供は一番の役割だと思うんですね、でもその情報を得てこういうことをやっていこうって決めるのは民間だと思うので、そのお金ばかり出していないので、情報提供、そして連携するところの繋がりをつくるとか。

それから、地域にも情報提供、たとえば修学旅行生を受け入れたときに農家さん、漁師さんに体験してもらおうんですが、そこの家に一泊泊したら一人につき4千円とか入るんですね、4人泊ったら1万6千円が入って、そういう仕組みを作ってって、それでどこかに泊めて体験させてくださいって修学旅行生を泊めてもらうんですが、そういうことができるのは民間だからだと思うんですね。

そういう情報をどんどん、役場は情報提供し、民間はしっかりと受け取って動くって仕組みを作って、あまりあまり行政が入っていくと、やっぱり大変なことにはなるって最後は面倒を見ないとない、全部。だからもうちょっと民間の力をいかすやり方を私はしてほしいというお願いです。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） 僕も、それはビーコネクトのメンバーもそう思っております、今支所と、我々と一緒に動いているんですが、支所がいつまでも今の体制のままであるというふうにはメンバーのみんなが思っていないんですね。いずれ合併から来年20年になりますし、今後もあのままの規模で総合支所が維持されるかも若干の危機感を持っているんですね。

役場であればいいようなものも、自分たちがなんとかしていききたいねってところで今回の話なんかも乗ってきてくれて動いているので、確かに運営どうするんだって、どうやって自分たちの従業員を養っていくんだってことを考えていかないとないと思いますが、いつまでも役所におんぶに抱っこって考え方は今のメンバー思っていないってことに、僕も希望を持っていますし、さらに民間発信でやってもらえたらなって。確かに情報提供だったりいろんなことはやっていきたいですが。答えになっていなくて申し訳ないです。

○委員長（赤井睦美君） ただ改修しますよね、これからお金をかけて。その改修が本当にいかされる改修になるのかどうなのかは、私は非常に気になって、もっとすまいるとかも違う使い方を考えたら改修も変わってくると思うし、もっともっと地域の皆さんの声を聴きながら、今の関係人口拡大にばかり重きを置かないで、地域の皆さんにも活かされた使い方って考えたら改修の仕方も変わってくるのかなって。

だから、あまり人口拡大に重点を置かないで、住民の皆さんにより喜ばれる使い方の改修の仕方もあると思うんですけども、そういうところをもっともっと民間の立場で町民の意見を聞きながら、改修内容も考えてほしいと思います。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） おっしゃるとおり、地域に根差した拠点施設を目指しておりますので、地域の意向なんかも聞きつつ考えていきたいというふうに思います。いろいろ、後でもいいのでご意見いただければ助かります。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（黒島竹満君） もう一点。

○委員長（赤井睦美君） 黒島委員。

○委員（黒島竹満君） 本当に自立っていう一番大事なところを考えながら話し合いをしていかないと、多分、5年後6年後に町が離れたときに、多分自立できないってかたちになってしまうんじゃないかな。最初からこの話はしてるんだけど。だからもっとやっぱりそこが一番大事なところだと思うんですね、民間が自立できるような今集まった会社がさ、自立できるような前向きな話し合いをさ、なんかされてない気がする。結局どうやって今後どうやって経営していくのか、運営していくのかって部分が一番大事なところがさ、されてないんじゃないかなって。

そして、議会で、熊石でさ、議会であれやったときに、集まった人に議員はどう考えてるんだって質問が出てきた。議会報告会でさ。熊石の人たちから。そのときに私言ったんですけども、議会議員じゃなくて、やっぱり地元の人たちがどんなふうに考えて、どういう力を貸してやるかが一番大事なところじゃないのって。議会の議員のほうにそういう話をするってよりも、自分たちのほうがどういうふうに考えてるのって。だから地元の人たちもなんか議員が反対してるからどうのこうのって話し方をしてるんだよね。だからその辺がさ、地域の人たちがその辺もなんか納得もしていないし、理解していない部分があるんじゃないかと思うんですね。

だからもっとやっぱり、地域の人たちの町内会だとか、町連協の人たちととにかくそういう話をしながらね、協力してもらって体制をつくりながら、そして一番大事なところはやっぱり、これからの運営だと思うんだよね。5年後6年後の運営だと思うんです。そこをとにかくきちんとおさえながらやっていかないと大変じゃないかなって。最初からそうやって言ってるんだけど。だから今後そういう部分をどのように話し合いしてるのか、今度、話してほしいんだけど。今後ね。今日はそこまであれだけでもさ。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） 議会報告会で、町民側から議会どう考えてるんだって
いう話、僕もそうそういうことを、要は自分たちがどうしたいのかっていうのがないのに議
会側に投げてるって話には、僕も疑問を感じるというか、まずは自分たちが何をしたいのか、
どういう地域を目指していきたいのかってことを考えて、それで、こういう手助けだったり
何か支援がないのかっていうならまだ理解できるんですが。

それで今回この事業を始めたきっかけも、まだ熊石地域の人口減だったり少子化だつたり、
保育園も存続の危機に立っているみたいになちょっと過激な情報を提供して、メンバーが
まずいねって、この何年もうやむやにしてきたものをそのままにしていられないから、自分
たちでできるところから何かやっていこうって話になって、今の会社ができてきたって。

もちろん、運営、本当に黒島委員がおっしゃるとおり、運営が一番だと思いますし、赤井
委員長が言うようにいつまでたっても自立できないなら、困ったものになりますので、その
辺はメンバーのビーコネクトのメンバーにも運営の部分は話をしますし、一緒に考えたり、
いい感じったら曖昧ですが、一緒にやっていって、地域を何とかしたいと思っていますので、
よろしく願いいたします。

○委員（黒島竹満君） 是非頑張ってください。

○議長（千葉 隆君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 予算を提示して、予算が結局履行できないって状況なんだけれども、
そもそも事業者の窓口というか、担当と話はしてるんだけれども、取締役なのか役員会かは
別にしても、意思決定機関が熊石ではできないっていうふうに今決定を下したってことな
んだけれども、その以前にやるっていう決定を意思決定機関をしたんですか。していたん
ですか。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） キッチハイクに熊石の保育園留学をやりたいので、ど
んな感じでお金がかかるのかとか、どんな内容なのって話をして見積書ももらっています
ので、僕はやるんだっていうふうに受け取っています。

○議長（千葉 隆君） そういうことを聞いてるんじゃないくて、意思決定機関で中止になっ
たってことでやれないってことで、相手側とか結果が出てきたわけですね、今回。です
から、やれるって意思決定機関で決まったっていうことは確認をして予算を提出してるん
ですか聞いています。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） 見積りもらって、やれるやれないって。

○議長（千葉 隆君） 委員長、答えられないならあれだけれども、たとえば今ウイスキー
事業がありますよね、ウイスキー事業。それで今社名やれないけれども、それぞれの取締
役会を通して意思決定した段階で本格的な協議に入ったりしますよね。当然その中から
お金を提出しますよね。そういうことは当たり前のことですよ。会社経営してる人にと
っては。株式会社だったら取締役会で決定して、その決定事項に基づいて事業を運営する。
有限会社

でも役員会をやって、役員会を決定した部分でその会社の事業をやる。だからそういうことを確認して、委託をするだとか、そういう部分の自治体というのは自分の計画を作って、そしてその確認をしたうえで予算の提案をするっていうのは、初歩的なことだと思いますけれども、それをわからないって答弁はどういうことなんですか。

○住民サービス課長（北川正敏君） 委員長、住民サービス課長。

○委員長（赤井睦美君） 住民サービス課長。

○住民サービス課長（北川正敏君） うちのほうで連携して保育園留学をやりたいうことでキッチンハイク側にやるにあたってどんな内容でどれくらいかかるんですかって話を聞きながら、お互いにそれはやるつもりで。

○議長（千葉 隆君） 商店の話をしてるんじゃない。どこどこ商店だとか、どこどこの民間団体の話をしてる類の話をしてるでしょあなた。

○委員長（赤井睦美君） 気持ちの問題じゃなくて、ちゃんとした契約があったからこういう予算提出したんでしょってことですよね。

○議長（千葉 隆君） 担当者の話をしても話にならないでしょ。

○住民サービス課長（北川正敏君） 契約するにしても予算もないのに契約もできませんし、予算を取るのに見積りもらってやるんじゃないんですか。

○議長（千葉 隆君） そうじゃないしょ。普通はさ、普通。休憩して。

○委員長（赤井睦美君） 休憩します。

休憩

再開

○委員長（赤井睦美君） じゃあ、休憩でしたので、再開します。

ほかにありませんか。なければこれで終わります。ありがとうございました。

【住民サービス課職員退室】

◎協議事項

○委員長（赤井睦美君） それでは、この今日のマイナンバーと熊石保育園についての協議となっていますが、いかがですか。

○議長（千葉 隆君） 今は住民サービス課だけれども、本当は田村さんの課でしょ。地域振興のほうは。コンセプト変えたほうがいいんじゃないのかなって思うんだよね。関係人口は、それはそれでやる、半分は地域利用会館とかさ、なんかやっていかないと地域交流というか、そこだけのコンセプトで頑張んなさいとって、それはそれで難しいというかやりたいならやるのはいいし、少しは活性化になるとかそれはそれでいいと思うんだわ。でもそれだけならなんとなく弱いから、もう一つなんかそこにコンセプトっていうか、利用するあそこの会館のなんかやらないと1年目、2年目だったらたいした利用されなくても非難されないけれども、3年目、4年目なら大変になるから大丈夫なのかな。

○委員長（赤井睦美君） 熊石レディースネットの皆さんからは、熊石って結構今お葬式自宅でやりますよね、自宅だとお客さんと呼ばないといけないから悲しんでいる暇もなくお掃除もしないといけない。だからそこ家族葬ができる、そういうところにしてほしいという声があります。

○委員（大久保建一君） 家族葬の会場に。

○議長（千葉 隆君） 笑い話じゃなくて、そういう発想で何かもう一つ複合的なものを考えてやって、やらないとそこだけじゃあ大変かなって。せっかくやるんだったらさ。

○委員（黒島竹満君） ただ会社つくってやろうとしている人がいるわけだから、その人たちが考えて自立していく、考えて話し合いしてとかさ、そういうのをやっぱりしっかりやっていかないと、こっちでさこうしたほうがいいんじゃないとか、ああしたほうがいいんじゃないかって言っても経営するほうだから、運営するほうが一番考えないといけないから。

○委員（斎藤 實君） 彼らの事業の会社経営したときに、事業のあれ何点かあったよね。あれを十分に活用したほうが一番いいんじゃないの。

○委員（大久保建一君） 会社の定款のこと言ってるの。会社の定款って普通どんな事業をやっても困らないようにいっぱい載せておくもの。それを全部やるわけではないですよ。定款ってそういうものですよ。

○委員（斎藤 實君） だからメインになるものを。

○委員（倉地清子君） メインは保育留学。

○議長（千葉 隆君） あれば少しはメニューの数もいっぱいやらなくても受け入れできるっていうのがあったから、そこだって税金使ってやるわけだから。でもそこが駄目になったときに、八雲地域になってから関口さんみたいに言って、そこと八雲と熊石連携するって、それだって時間がかかるわけだし、今のプログラム、地域のお祭りだとかイベントだとかだけで交流しますよって言っても、一年中、通年型でやるためには相当時間がかかると思う。

○委員（関口正博君） キッチハイクが間に入って、周りもどんどん進めていくし、キッチハイクにしてみたら選ぶだけの自治体が手を挙げてるんだもん。この急激にそうなりますからね、キッチハイクって。その中でふるいにかけてたんだけど、こうなったらもっとゆっくり急がなくても、ちゃんとやっぱり副議長が言うように本人たちがこうしたい、ああしたいってさ。

○委員（黒島竹満君） それを出してもらえばいい。計画書出して町がどこまで支援していくのか。

○議長（千葉 隆君） それだけで足りない。

○委員（黒島竹満君） やっていけるのかどうなのか。

○議長（千葉 隆君） なんか考えてやらないと。可哀想だよ。

○委員（関口正博君） せっかくいろいろな思いがあってそうやってやってるなら、長い目で見てやって、ここで一喜一憂しないで。

○委員長（赤井睦美君） それはそうだけれども、片方の町民からしたら委託料を払うわけでしょ。こっちなんもやらないのに冗談じゃないってなりますよね。

○委員（斎藤 實君） 委託料だってどういうふうにして、何を委託するのかってものにもよるだろうし。

- 委員長（赤井睦美君） 施設管理の委託するでしょ。事業に対する委託じゃなくて。
- 委員（黒島竹満君） だから指定管理して運営していくために。
- 委員（斎藤 實君） だからそのところを何年って見て、それ以降はできなくなるってことで、それまでの間にどういう蓄積してやっていけるかを見ていかないとな。
- 委員長（赤井睦美君） 委託は5年間って決まっています。それが果たしていいのか。
- 委員（黒島竹満君） 5年後にだからどうやって自立していくのかって。そこが一番大事なところだから、それをやっぱり出してもらわないと駄目じゃないのって。
- 委員（関口正博君） いろいろ考えられると思う。サーモンの事業もこれから人入れてやっていきましょう、国保病院だって建物は建ったけれども宿舍整備だって問題もこれから出てくるだろうし、出張医の泊る場所、ひらたない荘も使ってるんだろうけれども、だからいろんな考え方は当然できるはずで、今は保育園留学って枠を取って、もっと地域のためになることを本人たちに考えさせて、ただそれではそのためには八雲と同じやっぱりレベルでものを考えてはいけない。同じ税金だからって考え方があっても、熊石には熊石で地域の事情があるから、なかなか事業をやるって言っても、自分の資金で、熊石で物を起こしてって地域性は八雲では考えられない部分があるからね、そこはちょっとこれからいろんな事業をやっていくにあたって、地域特性は、同じ税金だけれども、みないとならないってところは多少は持たなきゃいけないかなって俺は思うけれども。
- 委員長（赤井睦美君） それがちゃんと納得できるように説明できるように。
- 委員（黒島竹満君） だから会社でも資本金が一年くらいの運営できるくらいの資本金を持ってるとかさ、いうかたちならいいけれども、今の資本からいったらまったく厳しくなったらまずやっていけない状況になるわけでしょ。だから5年間のうちにどれだけの蓄えができるのか、今の金額からいってもそんなにそんなに多分余剰金なんて出せないと思う。
- 議長（千葉 隆君） あの計画でいったら人件費を払って終り。だから結局その人件費払う部分も宿泊のさ、利用料あつての部分だけれども、やっぱりその宿泊できるためには、ここでいうなんかのプログラム作って、マルシェやる、それを本当に5年後、52 週やれるかってことさ。だからいっぺんにできないから、たとえば1年目は10 個やる、2年目は20 個、30 個やるって、それでそのほかにも滞在したいっていうのをやりながら。そういうようなかたちを組み立てることができるかできないか。実際に。
- 委員（関口正博君） 基本、入居料はこれから設備して、入居料は保育園留学で組む親子さんたちの中で結構いい値段で設定されて、それも含めての指定管理料ってなつてなかった。
- 委員（倉地清子君） それは違う。
- 議長（千葉 隆君） 今作るあっち側、本体は。
- 委員（関口正博君） 本体は別なんだ。
- 議長（千葉 隆君） それと、上のシェアハウスだとか、若い人と高齢者のシェアハウス。そこに入った賃料で。ただ本当にその利用者が出てくるか。賃料ね。だから高齢者は難しいと思う。逆に。食事作らないとならないから。自分たちで。そういう人たち自宅に居るから。食事を作れない、掃除をできないって人たちが何らかのサービスを受けるっていう部分であるかもしれないけれども。それで結局、じゃあそういう人たちヘルパーさんいるといっ

でも元気だからヘルパーの日数少ないから、そんな週に1回や2回しかできない、そういうふうにはならないんだわね。

だからそういう福祉系の部分をなんかやってあげるとかさ、そういう部分も何もないでただシェアハウスだから、そこで今度若い人たちが滞在するかっていったニーズを長期というか、移住する人たちは2階、旅行者とかは1階で長期滞在、短期滞在ってかたちだから。

結局、そのこのキッチンハイクで2家族は高校の住宅に入れて、それからあふれた部分がそっちにくるって。それと昼のワーク体験をできるっていうのは、今の滞在施設でやれる活用の日中活動の場所ってことなんだよね。だからそこら辺を。

○委員（倉地清子君） 1か月。

○委員長（赤井睦美君） とりあえずビーコネクトの皆さんの年間計画と、すまいるの活用方法ですね、年間どうやって活用していくのかってところが、もし今現在の考え方。その5年後とか言われてもまだ何にもやってないから大変だと思うので、今どう考えているのか出してもらってことでいいですか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

なければ次、視察調査について。

◎ 協議事項

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 委員長、議会事務局係長。

○委員長（赤井睦美君） 議会事務局係長。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 総務文厚の視察調査ですが、参加者、行程のほうでほぼほぼ確定となっています。資料のほう添付させていただいております。

視察先では福祉担当者様、防災担当者様に担当いただく予定ですが、視察先であらかじめ質問事項を受けたいということで、総務文厚のほうで資料を最初に配布させていただいておりますが、質問事項は添付しています。すでに何名かの方にいただいております。また質問事項があるという方は紙に書いていただいで出していただくこともできます。FAXも可能ですし、写真に撮っていただいでLINEで送っていただくこともできます。

あと視察前に避難所運営ゲームのDoはぐってことで、危機対策課に説明していただきながら、皆さんに避難所運営ゲームをやっていただいたらどうかってことで、委員長からご提案あったところでして、日程のほうは危機対策課と調整している結果、10月7日月曜日、午後であればいかがでしょうかってことで、ご提案がございまして、この点その日程で進めてよろしいか、ご協議いただけたらお願いでした。

○委員長（赤井睦美君） 10月7日午後1時半とか。

○委員（倉地清子君） あれは2時間でしたよね。発表して。大丈夫です。

○委員（大久保建一君） これは文厚としてやるの。

○委員長（赤井睦美君） この視察に行く事前研修。

○委員（大久保建一君） 事前研修だから文厚って枠組みではない。

○委員長（赤井睦美君） そう。総務も一緒。

○委員（佐藤智子君） 場所はどこでやるの。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 場所は隣の委員会室か控室を想定しています。早急でございますが、10月7日で良いということであれば皆様にLINEをお送りさせていただきます。以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（赤井睦美君） 質問、まだ出していない私が言うのもあれですが、出していない人はよろしくお願いいたします。

それと斎藤議員が直接新幹線駅に行くっておっしゃっていました。八雲の人は6時に役場に集合して、途中、落部の人とか山越の人を乗せていくと。

○委員（大久保建一君） 直接行くってどこに行くの。福島に。

（何か言う声あり）

○委員（佐藤智子君） 佐藤は国道で拾ってもらえますか。落部まで行きたくない。

○委員長（赤井睦美君） みんな拾うよ。

○委員（倉地清子君） くらやで拾ってください。

○委員長（赤井睦美君） あと途中で拾う人はいないか。いないね。

じゃあ黒島さんと佐藤さんと宮本さんと牧野さんと倉地さんを途中で拾っていくと。そうですね。以上でいいですかね。

◎ その他

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） すみません、最後のその他ですが、次回定例となると10月の17日木曜日、道外研修の次の日ですが、ちょっとこのスケジュールでいかがかなということで、10月17日木曜日10時議員控室でよろしいですか。

○委員長（赤井睦美君） 頑張りましょう。

じゃあみなさんからその他ございませんか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 病院の今回しばらくぶりにこういう話ができたと思うので、俺自身は知らなかったけれど、以前には特別委員会を議会で作っていろいろなことを検討された経緯ってあるんですね。それって何を。そのときはどういう話をしたんですか。

○委員長（赤井睦美君） 特別委員会はたいした。

○委員（関口正博君） 資料残ってるの。

○委員長（赤井睦美君） 報告書はあります。ただ非常に赤字で町の財政も厳しかったから赤字をどうするかって研修できたよね。それで後半アドバイザーの方が入ったので、その方のお話をお聞きするってそんな感じで、今日みたいに、その町長が選挙あるから絶対に言えないでしょって。議会としてどうしたらいいと思いますかって、そういうストレートな話し合いはできてないんですね。

だから今日は、事務長もストレートな話し合いができてよかったとおっしゃっていました。だから次回もそういうふうに本当に、本当の意味でどこの会議にでも正直なことを言えないじゃないですか。たとえば長万部病院建てるなら診療所にしろって言えないわけで、だけど頑張って面倒を見ますってことくらいしか言えないんだけど、やっぱり大久保さ

んが言ったように4町集まってどこかでどうなんだって、そうじゃないと保健所もできないといってるし、4町の連携の中でもできないからそこしかないのかなって。

○委員（関口正博君） そうですね、だから言ったように、町長に発破かけることしかできない。だとしたら議会にできることはやっぱりその地域医療構想で言ったら4町の合意形成を議員レベルで諮るだとかだとかくらいなのかなって気はするんだよね。

○委員（大久保健一君） それしかできないと思う。

○委員長（赤井睦美君） 4町で話し合うためにも、もう一回くらい勉強したほうがいいって思いました。

○委員（関口正博君） ただやっぱり残念なのは、最後は政治決断だって言うのは責任逃れだよ。

○委員（大久保健一君） 違うと思う。俺政治決断しかないと思う。現場側にそれをやろうって言える権限はない。

○委員（関口正博君） 権限はないにしても、今の状態だったら当然政治決断しかないんだけど、やっぱりそれ以上の期待は今の状態ではできないってことの裏返しでしょ。それがちょっと残念だになって、竹内事務長をもってしてのって思いもあって、役場職員にあのポストを与えて、いろんなことを動かしていくのはなかなか難しいんだなっていうのを改めて突き付けられたというか。

だとしたら、町長の尻を叩くしかないし、議会ももっと勉強しないとないってことを改めて僕今日言われた気がするんだけど、この八雲総合病院の命運は政治決断にかかってくる。

○委員（大久保健一君） 政治決断しかない。

○委員（関口正博君） だとしたら、議会はちょっと踏ん張ってお勉強しないとない。

○委員（大久保健一君） だけど二代表制なんだから、町長ばかりに決断させるんじゃないかって、我々も決断迫るような何かをしないとならないから、それで単体でうちらがやるんじゃないかって、4町の議会で、うちはどっちかというセンター病院設置している自治体だからさ、なんか上からものを言ってるように感じるけれども、そう感じさせないように、全体の問題なんですっていうのはやっぱり訴えていかなないとならない。

○委員（関口正博君） だからそれぞれの病院のホームページ見たらわかるけれども、経営強化プランって出してきていて、ここ5年のうちに将来のかたちっていうのはある程度決めるっていうのは国から言われてるから出してきてる。

だから自前で建てます、長万部なんか見ても診療所にしますよって今の段階では何も出てないんだから。でも、どう考えてもそれじゃなかったらそれぞれの町が保つわけなくて、それは、ちょっと見てください。経営強化プラン、八雲総合病院みすばらしいから。14ページ、ほかの自治体はコンサル使っているのわかるけど、ほぼ60ページ70ページあるから。

○委員（大久保健一君） でもそつたらもの絵にかいた餅だから。絵にかいた餅に金かけるかかけないかの問題。

○委員（関口正博君） 絵にかいた餅だけれども、ほかの自治体はそうやって金かけているのにセンター病院でやる総合病院は、そんなものにお金かけられないって俺は問題だと思う。絵に描いた餅だと思ってるけれども。

○委員（大久保健一君） 俺はかけるべきじゃないと思ってる。

○委員（関口正博君） でも将来のいろんなことをほかの病院はコンサル使ってあれしてる。逆に言ったらさ。模索していくわけだよ。でも八雲はそれができてないっていうのは、できてないわけではないんだろうけれども、やっぱりちょっと問題だなって思う。

ただ、どこの町も危機感あるかという、ないだろうけどね。

○委員長（赤井睦美君） それで病院のほうも、前もってこういうことが聞きたい、こういうことを調べてくれっていうなら、いくらでも勉強して、今日はざっくばらんってことで資料もないけれども、必要な資料も作って持ってきますと言っていたので、改めてみなさんのほうで事務局のほうに出していただけたら、また話し合いをしたいなど。

○委員（関口正博君） あともう一つ、監査委員にお伺いしたんです、この病院の問題点はどこにあるのって。監査委員は月ごとにもらうから、ここの科が問題あるとかは数字だけ見たら明白。要は、機器もいっぱい揃えているのに、患者が集まってないだとか、不採算のところははっきりわかる。そういう視点からも病院を見ることも必要だと思うんですね。だってやっぱりね、残すべき科と残さない科の見極めってダウンサイジングしていかないとない。だとしたらそういうことも勉強する項目の中に監査委員呼んで、どうなのって、知る権利を私たちにはあると思う。

○委員（倉地清子君） あると思います。レーザー治療とか眼科の。高額で買った予算もあるし、それはどういうふうに活用されて、効果はあるのか、泌尿器もそうだし、手術一式買ったんだから、それうまく活用していつてどうなっていくのかも知りたいと思っています。

○委員（関口正博君） その先生にもよる。

○委員（大久保健一君） 使うから買ってっていった先生がいなくなる。

○委員（関口正博君） いなくなってから機械を買われるってパターン。

○委員（大久保健一君） 青年舎も機械は買った方がいいけれども、使う人がいなくなったから売らないとないって。

○委員（関口正博君） でもそういう勉強をするなら、俺は残り1年の任期の中で特別委員会を組んで、ちゃんと次の世代に橋渡しする。だから前回の特別委員会ってどういうのが話し合われたのか見てみたいと思った。病院の経営に対する特別委員会。あれやって地域医療講演会とかができたので。

○委員長（赤井睦美君） ただやっぱり委員会となると全部記録に残るから、今日みたいに事務長が自分の思いだけれどもというそういう言葉はありません、差し障りのない言葉しか出てこない。報告書も作らないといけないし。だから本音って言ってたけれども、こういう話は難しいかなって。

○委員（大久保健一君） だから本当は4町の議員が集まって腹割って話できる場がないと、多分、俺たちもよその町村の本当の考え方とかさ、議員各自の考えであって町長は別だって言ったらそれまでなんだけれども、でも俺たちが本当にそうやって思っていないと、町長とか町を変えていけないから。

○委員（関口正博君） ただ、足もとの総合病院の状態も我々が知らない限りは、逆にほかの話もできないというか、だから。

○委員長（赤井睦美君） 国保病院との関係も。

○委員（大久保健一君） まず八雲町に2つあるって言われる。

○委員長（赤井睦美君） それなんとかしないと人のことを言っていないで、おまえたちどうにかしろって。

○委員（関口正博君） あなたたち 30 床の病院建ててまったべって。減らしはしたけど。ただそういうことなんだよなって思いつつ、じゃあなに、熊石で建てて俺たちを診療所化すれってことかってなるでしょ。だから結局はまず我が町の病院。

○委員（大久保健一君） でも長いスパンでもいいから、思いというか考え方を共有していかない。少しでも。怒られてもいいと思う。

○委員（関口正博君） おまえたちセンター病院の役割果たしてないべやって、もう俺たちはあなたたちとっこして函館と話をしてるって話も地域医療構想会議の中でされてる。

○委員（大久保健一君） それでも本気で腹割って喋れるんだったら、まだ前進だから。今よりは前進だと。

○委員（関口正博君） もう脳卒中なんかは直接ヘリで函館って、八雲経由で考えてないところも出てきてる。

○委員長（赤井睦美君） そういう中で八雲はどうするかって。

○委員（関口正博君） 八雲の立ち位置を明確にして、俺は函館とちゃんと連携とりながら、できることは八雲でやって、あとはすぱっと函館に輸送する輸送手段の。救急車の配備だとかさ、そういうことになるんだろうけれども。患者輸送バスだとかが出てきたら患者輸送バス。その町内ですら確立されてないのに、今の段階でどうなのかなってというのは。

○委員長（赤井睦美君） 協力しないとみんなつぶれてしまう。自治体が。病院だけつぶれるんじゃなくて自治体が先につぶれてしまう。

○委員（大久保健一君） それじゃなくても今少子化の問題として病院がない自治体ですら消滅可能自治体になってるんだから。

○委員長（赤井睦美君） そういう話し合いをもう一度総合病院と。私国保病院との関係も総合病院にどう思ってるか聞きたい。本音を。

○委員（関口正博君） それ以上でもそれ以下でもない。

○委員（倉地清子君） リハビリもどうなったのか。

○委員長（赤井睦美君） 院長先生がお断りなんだって。あまり総合病院に入ってほしくないんだって。熊石のほうね。だから熊石の院長先生が変わったらすごく変わるってお話を聞いたことがある。

○委員（関口正博君） だから町長も話をしてるって、今日なんも話してない。今なんて院長俺が話してできるからって、全くしてない。

○委員（倉地清子君） 踏み込んだ話はしづらいから。

○委員（関口正博君） しないと駄目なのは町長。開設者だから。それでやるって約束してもうこの任期が終わろうとしてる。前の岡島さんとそういう約束。まあ口約束だからな。

○委員（倉地清子君） 今日の勉強会をしてもらったのはすごくよかったです。わからなかったこと結構一気に教えてもらったし。

○委員（大久保健一君） 意味があったね。

○委員長（赤井睦美君） 今度、質問事項を寄せていただいて、それをもとに話をしたいと思います。

じゃあよろしいでしょうか。

○委員（大久保健一君） あとその他で、人の議員さんの考え方に異論をはさむつもりはないけれども、ちょっと俺はDX担当の特別委員会の委員長もやっていたので言いたいんだけど、DXの流れは変えられないので、それを職場の手間が減らないんでしょとか、何とかっていうのもいいんだけど、結果それを何でやっていくかという、将来的にはいろんなものがDXでつながって、楽になっていくから今面倒でもやっていきましょうってことだから、それはあまり異論をはさまないほうがいいと思ったのが一つ。

もう一つは、我々議員が目指さないとならない一番は、利用者、町民の利便性の向上であって、職員の業務が増えるからっていうのはそんなことは二の次三の次だと思う。だから俺すごく残念だった。あの言い方は。委員長と斎藤さん。

○委員長（赤井睦美君） 私はやめろとかは全く考えてないよ、町民の利便性考えてやるべきだけれども、言ったら悪いけれども、住民生活課でついこの間ミスがあったじゃないですか。それで私本当に人が足りないんじゃないかと思っていて、住民生活課そのものに。

だから、本当にこれで負担が増えて大変だって、またミスが起きる前に人を足すとかしながら、やっぱり皆さんにすみませんって謝る前にそういう対応してほしいなって感じ。DXをやめてほしいとかではなくて。

○委員（大久保健一君） でも負担は増えないと思う。あれによって負担が増えるならやらないほうが俺もいいと思うし。ただ、千葉議長がいうように、一個決済会社を挟んで、ただその会社とのお金のやり取りだけで済むなら、絶対に利便性は向上すると思う。利用者も徴収する側も発行する側も。だからそれはやっぱり大局を見て判断してほしい。

○委員長（赤井睦美君） 反対ではない。

○委員（倉地清子君） おっしゃるとおりで、時間はかかるけれども、100パーセント使用率が上がっていくことを目指してやると、完全にそこから逃れられるって事務処理がね、なるんだなって。揃ってないのが問題なんだけれども、揃うまでにそれを啓発してっていくこと必要かなって話を聞いて思っていました。

○委員（大久保健一君） ちょっと蛇足ですが。

○委員（関口正博君） 俺からも一つ。

ごめんなさい、知識が薄いのかもしれないし、俺が言うのもあれかもしれないけれども、戒告のことあったでしょ、これは俺みたいな悪いやつはあれだけでも、あれって新聞報道必要なの。ほかの自治体見たことある。

○委員長（赤井睦美君） 私はよくわからない。

○委員（大久保健一君） 町職員とかの処分既定の中に決まってると思う。

○委員（関口正博君） だとしたらさ。

○委員長（赤井睦美君） これ以上は載せるとか。

○委員（大久保建一君） 載せる載せないではなくて、広告するとか、多分公に出すってことが決まってるんだと思う。違うの、千代君。公に出すってことは報道機関が載せるか載せないは判断することで、公に出してるから、たとえばこの報道機関には出しませんか、これは出しますってことではなくて、公に出すってことはみんなに知らしめるってことになるから、あとは報道機関が判断する話。

○委員（関口正博君） 俺少なくとも毎日新聞見ている、あまり見たことない。八雲ばかり出てるように。確かにたまにはありますよ、けどこんなに頻繁にあるんだなって。八雲が特別そうなのか。

○委員（大久保建一君） たとえばよく見たら道職員だったらスピード違反とかはよくでる。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） 確かホームページに載せるんだったかなと記憶していて、ホームページに載せるってことは公開したということ。

○委員（大久保建一君） だからそれはうちの自治体だけではないでしょ。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） これは総務のほうに確認しないと。ホームページに載せた以上は新聞に報告したのと一緒に。もしかしたら北海道新聞さんを毎日ホームページをチェックしてるのと一緒にだよなって。

○委員（関口正博君） ホームページの公開義務は仕方がないと思う。それは自治体として。それを八雲の新聞社だけが特別そうなのか。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） そういうことですね。

○委員（関口正博君） 公開義務ってあるんだよね。報道をちゃんとしないとならないっていうのは。でも八雲。名前が載るわけではないからいいかもしれないけれども、でもやたら八雲って、ない。なんだろうなって思わせる。

○議会事務局庶務係長（千代貴大君） そこは。

○委員（佐藤智子君） ほかの自治体。

○委員（関口正博君） 戒告って給料が号給が下がるってだけだよ。だからその罰の度合いって犯した罪によるんだけれども、（聞き取り不能）。戒告の段階で出ないとならないのかなって。だから懲戒免職とかさ、減給3か月とかならわかるよ。当然罪も重くなるからさ。

○委員（佐藤智子君） 戒告って注意だけ。

○委員（関口正博君） 給料も下がる。

○委員（倉地清子君） 下がりましたっけ。

○委員（関口正博君） ラインが下がる。

○委員（倉地清子君） 号俸が。

○委員（関口正博君） と思っちゃいました。だから優しくないっていうか厳しくするのはいいんだろうけれども、若い子がスピード違反で捕まって。

○委員（大久保建一君） でも多分町例の条例どおりでやってると思うし、多分町の条例に、自治体によってその処分規定が違うとも思えない。

○委員（関口正博君） ほかの自治体の職員のが行儀良いいってこと。

○委員（大久保建一君） 行儀がいいのか、そっちの人が載せないって判断しているのか。ニュース性がないと思って。ただセクハラもあるから今時載せやすいというか、興味があるから載せると思う。それでそうなってしまったらこっち載せたのにこっち載せないって。

○委員（関口正博君） スピード違反は自己申告でしょ。消防は必ず申告しなかったら、業務の中で車載るから。ただ車に乗らない職員もいるわけだから、だから仮に 50 キロオーバーしなかったら申告しなかったらわからない。正直に言って新聞に出て。

○委員（大久保健一君） 申告しなさいってなってるでしょ。

○議長（千葉 隆君） でも免停になったときに、農林課とか消防とかなんて車に乗るから。そしたらばれるから申告するのであって、ばれない職種のところなら。そこの違いだと思う。課で公用車を運転するかしないか。

○委員（関口正博君） それを正直にしゃべって新聞に出されてだよ。俺は悪いから新聞に出てもいいんだけど、今回の戒告の部分、いつも出てる気がする八雲って。

○委員（大久保健一君） それ新聞気にしすぎなんじゃないの。

○委員（関口正博君） これ名前出てないからいいけれども、名前出たら一生犯罪者だよ。

○議長（千葉 隆君） 新聞は町は訓告だから告示っていうか、開示をしてるだけで、あとはその開示を見た新聞社の権限で。

○委員（大久保健一君） 新聞社の判断だよな。

○議長（千葉 隆君） 新聞社の判断だから。

○委員（関口正博君） 前の消防のときもそうだったけれども、申告して給料減らされて新聞載せられて。方や申告しなくてもいい部署にいる人は申告しなくてよくて給料も下らない。

○委員（大久保健一君） 申告しなくてもいい話ではない。

○委員（関口正博君） でもそれは条例としておかしいってことでしょ。

○委員（大久保健一君） 条例は性善説にのっかってやってる。

○議長（千葉 隆君） ちゃんと申告するように。だから申告しない人がわからないってだけじゃない。

○委員（大久保健一君） 申告しない人があとからばれてもっと重い処分が来るかもしれないし。

○委員（関口正博君） あまりにも差があるんだなって。今後の人生にもかかわってくるっけ。戒告って、ずっと号給下がったままだって、前に消防のときも言ったけれども。だから正直にしゃべって生涯年収変わって新聞にも載せられて 20 代の若者。あまりだなって。セクハラはいいよ。

○委員（倉地清子君） 結構出していましたよね。

○委員（大久保健一君） 52 キロオーバーとかだよ。

○議長（千葉 隆君） だからそういう行政処分に対して、処分を科さないというふうにならないからそういう立て付けで。

○委員（関口正博君） 40 何キロオーバー。

○委員（大久保健一君） だから逮捕の略式起訴みたいなことになったら処分であって。

○議長（千葉 隆君） 免停だもん。

○委員（大久保健一君） 普通の 10 キロ、15 キロオーバーならそこまでならない。

○委員（関口正博君） 俺も免停 3 回くらいやってるから言えないけれども。

○委員（大久保健一君） それはそっちが普通じゃないだけ。

- 委員（関口正博君） 俺は割に合わない気がする。しょうがないんだろうけれども。
- 議長（千葉 隆君） でもやっぱり同じ訓告でも、交通違反した人とそっち側とでは同じ重さでも違う目で見るところみんな。
- 委員（関口正博君） 新聞に載った事実は実名出てないからいいけれども、そんなに変わらない。同じ戒告だから。受けるものは思った以上に重たい。
- 委員（大久保健一君） ずいぶん新聞のこと。
- 委員（関口正博君） これ深刻なんだって。ただ実名出てないからまだいいけれども、あそここの部分、なんで新聞報道までしないとしないのかなって。
- 委員（佐藤智子君） 場所的に目立つところに書いてあったよね。
- 議長（千葉 隆君） セクハラが主な部分で、セクハラ載せたら同時発表なもの。
- 委員（大久保健一君） こっちだけ載せてこっちだけ載せないってならないから。
- 議長（千葉 隆君） タイミングが悪い。だいたい捕まるときのタイミングが悪くて捕まってるんだから。
- 委員（大久保健一君） あれって移動オービス。
- 議長（千葉 隆君） オービスもどきのもあるから。ダンボールのやつ。
- 委員（関口正博君） 移動オービスなんてどこで捕まるかわからないんだから、俺たちが行政処分受けるようなスピード違反犯した場合には100パーセント新聞に載るの。
- 委員（大久保健一君） 俺ら身分はわからないけれども、公務員ではないと思う。
- 議長（千葉 隆君） 逮捕されたら載るけれども。わからないもん、黙ってたら。
- 委員長（赤井睦美君） 終わります。ありがとうございました。

[閉会 午前11時58分]